

小学部 B グループ

1 研究テーマ

「Hが自分の行動や感情を自己調整し、友達と仲良く学校生活を送るための手立てについて」

2 テーマ設定の理由

昨年度、小学部の高学年通常の学級グループでは、「単元観点位置づけシート」と「児童の視点シート」を共通ツールとして複数の教師の目で分析・検討等を行いながら研究を進めたことで、シートの集計から児童のめざす姿を焦点化したり、目標や手立て等を具体化したりしながら実践することができ、児童主体の授業づくりに効果的であったという成果が得られた。また、研究テーマや対象児に応じてシートの内容を柔軟に修正しながら共通の検討ツールとして活用したことで、対象児のめざす姿や評価のポイントを具体化してテーマに迫ることができた成果は今年度も継続できると考える。

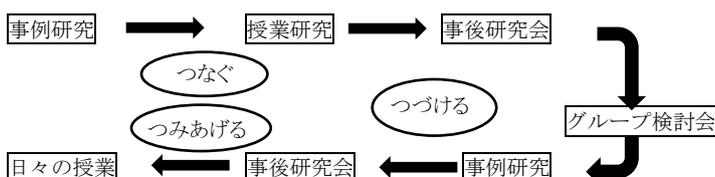
本グループでは、5年生の児童Hを対象として、年間を通して主として事例研究（この中に数回の授業研究を含める）に取り組む。Hは友達とかかわりたいという気持ちが強く、自分からあいさつをしたり、友達の活動を手伝ったりすることができる。しかしその反面、友達が自分の考えと違うときや自分の気持ちが落ち着かないときに、他害をしたり、わざと友達が嫌がる行動をとったりすることがある。そこで、Hが教師とのやりとりの中で自分の感情に気付き、その感情を自分で調整する力を身につけることで、落ち着いて活動に参加できるようになるとともに、友達とのより良い人間関係が形成されるものとする。また、学校生活において用いた手立て等の成果や課題を家庭や放課後等ディサービスと共有することで、社会で生活するための礎として機能するのではないかと考える。コミュニケーションツールについては主として絵カードを用いながら用途に応じて組み合わせ、単元予定表や約束ファイルを作成し、それらをもとにHからの発言を促したり互いに交渉したりすることをめざしたい。このような取り組みを通して、Hが自分の行動や感情を自己調整し、友達と仲良く学校生活を送れるようにしていきたいと考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

絵カードを主としたコミュニケーションツール（約束ファイルや単元予定表など）を介して教師とやりとりすることで、その時々自分の行動や感情に気付いて自己調整を図ったり、友達とのより良い人間関係を形成したりできるようになるのではないかと考える。また、これらの手立てに関する成果や課題を、家庭や放課後等ディサービスなどと共有することで、社会生活を円滑に送るための礎として機能できるようになるのではないかと考える。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進方法



(2) 研究計画

5月	テーマ設定・研究計画検討、作成
6月	授業研究、事後研究会
7月	グループ検討会(中間報告会に向けて)
10月	事例研究
11月	事後研究会
12月	研究のまとめ(成果と課題)
1月	校内研修全体協議会の報告に向けた準備
2月	校内研修全体協議会での報告